

みんなでやらいや農業支援事業
【がんばる農家プラン事業】

事業名：梨農家の水稻販路拡大プラン

平成27年5月

湯梨浜町 中村弘明

1. はじめに

現在、私は湯梨浜町内で水稲作を中心に農業を営んでおり、平成2年に25歳で農業を始めてから、25年が経とうとしております。当時は梨栽培を始めたものの、梨の木が古木であったため思うように収量が上がりず、一挙に9割程度を更新したうえでのスタートとなりました。平成14年ごろから収益が出始め、経営が軌道に乗り始めた平成18年に認定農業者の認定を受けました。

このころから梨栽培の合間に水稲栽培、作業受託を始めたところ、地元からの「田んぼを作ってほしい」との要望とともに、町農業委員会事務局からの斡旋により徐々に作付面積が増えていきました。作付面積の増加に伴い収益が出始めると、最初は「小遣い稼ぎ」程度と考えていた水稲栽培が面白くなっていき、自分の専業農家としての限界を知りたくなり、規模を拡大してきました。

湯梨浜町は二十世紀梨の一大産地であり、多くの農業者が梨と水稲の複合農業を行っています。しかし、そのほとんどが梨栽培中心の農家であり、梨栽培を維持しながら水稲栽培を拡大することは難しいとされています。また、近年では農業者の高齢化により、作り手の無い田んぼがますます増えてきており、現在、私は地区内の水田の6割の田植え作業、9割の刈り取り作業を請け負っている状況です。併せて今年3月には地域の農地の受け皿として集落営農組織を立ち上げたところであり、今後私が作業オペレーター等、その中心となり取り組んで行くこととなります。一方、地区外でも米の作付依頼が農業委員会を通して年々増加しており、H27年は14.3haとなっており、今後も増加する見込みです。しかし、近年の米価の下落及びJA乾燥施設使用料等がネックとなり、規模拡大したところで収益は上がりず、ますます梨と水稲の両立は難しくなってきたと感じています。このような状況のなか、私は今後はJAに頼らない、個人で販売していく能力が必須だと考えるようになり、本事業を活用することで、乾燥施設等の整備し、乾燥、精米、販売を自分で行いたいと考えています。

私は、このような取組みを続けることで、自身の収益の増加を目指すことはもちろんですが、若い農業者の見本となっていくことができたかと考えています。そうすることで、地域の農地が守られるだけでなく、梨産地の維持につながると考えており、地域農業の発展につながると考えております。

2. 取組みによる経営目標

(経営面積：a、販売高等：円)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	備考
経営面積(10a)	3,138	3,138	3,908	4,475	5,045	5,365	
水稲作付	900	900	1,383	1,650	1,860	2,000	
製作付	45	45	45	45	45	45	
作業受託	2,193	2,193	2,480	2,780	3,050	3,320	

3. 農業経営の現状と課題

1) 農業経営の現状

	水稲	飼料用米	備蓄米	梨	作業受託	その他	合計
面積(a)	900	-	-	45	-	-	945
収入額(%)	31%	0%	0%	44%	19%	6%	100%

2) 現在の生産、経営の課題

(1) 米価の下落

平成 26 年産の J A きぬむすめの概算金は約 8,400 円/60k g であり、平成 25 年産の約 11,200 円/60k g に比べると 2,800 円下落しており、今後も米価が回復することは期待できない状況です。また、J A の乾燥施設「カントリーエレベーター（以下、「カントリー」）」に出荷した場合、乾燥施設使用料が約 19,000 円/10a かかっており、年々増額していることから、米価の下落と合わせ、経営を圧迫しています。

(2) 刈取時期の遅れ

カントリーの米の荷受けは 3 日に 1 日休みとなっており、それに雨が重なると 3、4 日休みになることもあり、数年前から刈り取りの遅れが指摘されております。特にきぬむすめの刈り取り時期が 1 週間と短く、水分量が多いまま刈り取りを行わなくてはならないこともあり、品質の低下を招いてしまいます。

4. 課題を解決する方法

1) 水稲栽培等による所得の確保

(1) 販路の拡大（特別栽培米導入ほか）

私は平成 27 年度より鳥取県特別栽培農産物認証を受けており、きぬむすめの特別栽培に取り組みたいと考えております。鳥取県のきぬむすめは 2 年連続食味ラン

キングで特Aという最高評価を受けており、このきぬむすめを柱に特別栽培をすることで付加価値を付けて販売したいと考えております。しかし、現状ではJAは特別栽培米の受け入れは遠く離れた倉吉市の乾燥調製施設でコシヒカリのみとなっており、湯梨浜町での受け入れはありません。そのため乾燥調製施設を整備することで、特別栽培きぬむすめの販売が可能となります。特別栽培米の導入にあたっては、他の一般米と区別し機械や乾燥施設使用前に洗浄し、別に保管を行います。食味についても、普及所等の協力を得て技術向上に努め、おいしい米を供給したいと思っております。

また、他の農業者で特別栽培に取り組みたいと考えている方がおり、JAが特別栽培米を取り扱わないことがその取り組みの障害となっているのであれば、自分が乾燥・調製を請い、受け皿となることで、特別栽培が町で普及するための手助けになればと考えております。

主食用米についても同様に、JA以外の小売店に販売することを計画しており、加えて、現在進物用の梨を販売している個人の方にも米の販売を拡げていきたいと考えています。

○販路拡大

単位：t

		H26	H27	H28	H29	H30	備考
個人消費者		0	0	0	1	1	
小売店	特別栽培米	0	2.3	14	23	26	
	一般米	0	2.7	5	15	25	
JA		47	67	70	65	57	
合計		47	72	89	104	109	

(2) 米の作付拡大

現在、約9haの水稲栽培を行っておりますが、農業者の高齢化等により、今後作り手の無い田んぼが増えてくると予想されるため、地域の担い手としての自覚を持ち、農業委員会からの斡旋を含め、積極的に借り受けていきたいと考えております。具体的には3年後には、現在の水稲栽培の約倍である19.5haに拡大したいと、考えています。規模拡大に伴う労働時間の増加については、雇用を増やすことで対応したいと考えております。

○経営面積推移

単位: a

	H26	H27	H28	H29	H30	備考
特別栽培米	0	50	300	500	550	きぬむすめ
主食用米	900	833	850	950	950	
うち きぬむすめ	540	503	570	630	660	
コシヒカリ	180	165	190	210	220	
ひとめぼれ	180	165	190	210	220	
飼料用米	0	240	240	240	240	日本晴
備蓄米	0	260	260	260	260	JAきぬむすめ
水稻計	900	1,383	1,650	1,950	2,000	
梨	45	45	45	45	45	
梨計	45	45	45	45	45	
経営面積計	945	1,428	1,695	1,995	2,045	
作業受託(耕耘・荒起こし)	268	294	321	348	375	1割程度増加
作業受託(耕耘・2回目)	268	294	321	348	375	1割程度増加
作業受託(代掻き)	280	307	335	363	391	1割程度増加
作業受託(田植え)	450	494	539	584	629	1割程度増加
作業受託(コンバイン・カッター)	450	496	541	586	631	1割程度増加
作業受託(コンバイン・結束)	478	525	573	621	669	1割程度増加
乾燥	0	70	150	200	250	
作業受託計	2,193	2,480	2,780	3,050	3,320	
合計	3,138	3,908	4,475	5,045	5,365	

(3) 生産コストの低減(自家育苗の導入)

現在、栽培している水稻の苗を全量JAから購入しているが、今後は規模拡大を伴い播種機を導入し自家育苗を行い、生産コストの低減は図っていきます。

○育苗費試算

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
経営面積(a)	900	900	1,383	1,650	1,950	2,000
種苗育苗費(円)	915,300	915,300	1,403,460	1,133,550	1,339,650	1,374,000
前年差額	0	0	488,160	△ 269,910	206,100	34,350
(内訳)						
苗代金(①×②)	915,300	915,300	1,403,460	1,133,550	1,339,650	1,374,000
苗単価①	678	678	678	458	458	458
苗枚数②	1,350	1,350	2,070	2,475	2,925	3,000

○育苗費用

資材名	単価(円/枚)	JA単価 (円/枚) ※3日苗	1枚当たり 差額 (円)	10a 当り差額 (円) ※10aに15枚 使用
合計	458.00	678	▲ 220.00	▲ 3,300

(4) 米の品質の向上(適期刈り取り、分散鋤圃の解消)

当該事業により、乾燥施設を導入することで、カントリーの荷受けスケジュールに関わらず、適期に刈り取りを行うことが可能となります。また、梨作業や作業受託との作業の競合を防ぐため、米の作期品種構成考えて作付けを行い、作業効率を向上させることで、適期に刈り取りができるようになっていきます。

また、現在耕作している農地は一定の地域に固まっているものの、連担している農地ばかりではありません。今後は湯梨浜町にも協力いただき、作業効率を向上さ

せるためにも、分散錯圃の解消を図り、米の品質向上を図っていきたいと考えております。

○作期分散

	5月	6月	9月	10月
梨	摘果	袋かけ	収穫	
ひとめぼれ	移植		刈取	
コシヒカリ	移植		刈取	
きぬむすめ		移植		刈取
飼料用米		移植		刈取
作業受託	移	植→→→	刈取→→	→→

(5) 地域への貢献

私は、上記(1)～(4)の取組みを行うことで、自身の収益の増加を目指すことはもちろんであるが、自身の農業スタイルを確立し、それが若い農業者のモデルとなってくれたらと考えています。私のように梨栽培を行いながら水稻栽培でも儲けていける農業者が増えていけば、地域の農地が守られるだけでなく、梨産地の維持につながると考えております。

また、自身の経営のみでなく昨年年3月に設立した集落営農組織の事務局長として、自身が作業を受けるだけでなく、地域の農地は地域で守る仕組みづくりを先頭に立って進めていきたいと思っております。

5. 具体的な取組内容

	H27	H28	H29	支援体制
農機具庫の導入	◎			本人、県、町
乾燥調製施設の導入	◎			本人、県、町
米の作付拡大	○	○	○	本人
販路の拡大	○	○	○	本人
育苗機導入		◎		本人、県、町
生産コストの低減			○	本人
米の品質向上	○	○	○	本人

◎はがんばる農家プランの実施。○は本人が主体となって実施。

6. 支援事業の内容

年度	事業導入品目	事業費 (消費税込額)	負担割合
H27	農機具庫	9,774,484	実施主体 1/2 県 1/3 町 1/6
	乾燥調製施設	7,029,720	
H28	育苗設備	2,135,160	
合計		18,939,364	

※補助上限以上の費用については、実施主体で負担。

7. 導入予定機械・施設(平成27年現在)

	品名	規模	数量	小売価格 合計(税込)	小売価格 合計(税抜)	負担区分			耐用 年数	減価償却費 円/年
						県(1/3)	町(1/6)	個人(1/2)		
導入機械 (1年目)	農機具庫		1	9,774,484	9,060,449	3,000,000	1,600,000	12,304,204	20	226,261
	荷受けホッパー		1	463,000	420,000				7	30,000
	乾燥機	37万石	2	3,072,000	3,400,000				7	242,867
	乾燥機付帯設備		1	506,196	468,700				7	33,479
	ライスプール	HB-27	1	340,200	315,000				7	22,500
	脱粒機	HB-10	2	190,080	176,000				7	12,571
	ミカエナ	PG3500	1	259,200	240,000				7	17,143
	鋳造機	NRZ450GWAK	1	907,200	840,000				7	60,000
	粉砕機付帯設備一式		1	57,664	53,300				7	3,807
	穀型選別機		1	269,440	268,000				7	18,143
計量選別機		1	354,240	328,000	7	23,429				
導入機械 (2年目)	育苗関係機械		1	2,135,160	1,977,000	659,000	329,500	1,146,880	7	141,214
合計				18,939,364	17,536,449	3,659,000	1,829,500	13,450,884	-	832,404